

牧師室から(2021.8.8)

このようにコロナが蔓延している時期になぜオリンピックなのか、という気持ちに変わりはないが、テレビに出てくる選手たちの頑張りを見ると、つい夢中になって応援している自分がある。

そもそも、オリンピックという名前は、古代オリンピックが行われたギリシア地方のオリンピアという所から由来している。古代オリンピックはギリシアの神々を崇める宗教行事の一つであった。太陰暦を使っていた当時に、それによって設定されたのは8年一度だったが、後4年一度に変わった。それは近代オリンピックにおいても受け継がれることになった。古代オリンピックはローマ時代に入るまで続けられたようだが、キリスト教が公認されローマの国教になると異教の神々を拝むことから、393年を最後に禁じられた。

近代オリンピックは一人のフランス人の呼びかけによって、1896年ギリシアのアテネで世界各国の友好と平和を願う祭典として再び始まり、戦争によって何回かの中止はあったものの今まで続いている。

年々種目も増えて、私には馴染みない競技が目立つようになった。多くの種目の選手の中で、私の印象に強く残っているのは、今は引退しているが100メートル競走のジャマイカのウサイン・ボルト選手である。皆さんもよくご存知であると思うが多数の金メダルを取り、世界記録をなしている。しかし、私の驚きは、彼が脊椎側湾症という持病を持っていることである。つまり、早く走るのには障害になる体を持っていたということである。結構前のことであるが、彼のことがテレビの特集番組として放送された。彼は自分のコンプレックスを克服するために走り方を一生懸命に研究し、血が滲むような練習をしていた。私はそれを見ながら感動した覚えがある。

使徒パウロも当時において、古代オリンピックのような競技を見ていたようで、コリントの信徒への手紙の中でこのように言っている。

「あなたがたは知らないのですか。競技場で走る者は皆走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも賞を得るように走りなさい。競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、わたしたちは、朽ちない冠を得るために節制するのです。だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。(Iコリント9:24~27)」

体の棘を持っていながらも、福音伝道のために走り尽くしていた使徒パウロの言葉を改めて思い出しながら、いろいろ問われているような気がする。

(鈴木善姫牧師)